

令和 4 年度に係る  
公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果

(案)

令和 5 年 8 月

公立大学法人福知山公立大学評価委員会

目次

I 令和4事業年度の業務実績評価について..... 1

II 評価結果

1 全体評価..... 3

2 大項目別評価..... 6

《公立大学法人福知山公立大学評価委員会委員》

区分	職名等	氏名
委員長	京都府立大学名誉教授	青山 公三 <small>あおやま こうぞう</small>
委員長職務代理	大阪公立大学 事務局次長	大久保 正明 <small>おおくぼ まさあき</small>
委員	社会保険労務士・行政書士 菊田学美事務所 所長	菊田 学美 <small>きくた まなみ</small>
委員	税理士法人藤原事務所 代表社員	藤原 健 <small>ふじわら たけし</small>
委員	学校法人淑徳学林 理事長	山口 剛 <small>やまぐち つよし</small>

# I 令和4年度に係る業務実績評価について

公立大学法人福知山公立大学評価委員会は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2第3項の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）の令和4年度に係る業務の実績について、「公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針」、「公立大学法人福知山公立大学に関する年度評価実施要領」及び「公立大学法人福知山公立大学に関する中期目標評価実施要領」により評価を行った。

## 1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の教育研究の特性や運営の自主性、自立性に配慮して行うものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の組織・業務運営等に関して総合的に行い、改善すべき点等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資するものとする。
- (3) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (4) 評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取り組み状況やその成果をわかりやすく示し、市民への説明責任を果たすものとする。
- (5) 評価方法については、必要に応じて工夫・改善を行うものとする。

## 2 評価方法

- (1) 評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
- (2) 評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行った。
- (3) 「項目別評価」は、「小項目別評価」及び「大項目別評価」により行った。

### 小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況又は実施状況を確認し、評価を行った。

評価	進捗状況（実施状況）
4	年度計画を上回って実施している（上回る実施状況）
3	年度計画を順調に実施している（十分な若しくは概ね実施）
2	年度計画を十分に実施できていない（下回る若しくは実施が不十分）
1	年度計画を大幅に下回っている（特に劣る若しくは実施していない）

### 大項目別評価

年度計画の小項目別評価及び特筆すべき事項（以下「特筆事項」という。）を踏まえ、中期計画の事項（以下「大項目」という。）ごとに、当該事業年度における中期計画の進捗状況について、次の4段階により進捗状況を示すとともに、記述式により自己評価した。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置
(2) 研究に関する目標を達成するための措置
(3) 地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置
(4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
(5) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
(6) 自己点検・評価及び該当状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置
(7) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

評価	評価基準	判断の目安
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上であり、かつ、評価委員会が「S」と認める場合。</li> <li>小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「S」相当と認める場合。</li> </ul>
A	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.0以上3.5未満であり、かつ、評価委員会が「A」相当と認める場合。</li> <li>小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.0に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合。</li> </ul>
B	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上3.0未満であり、かつ、評価委員会が「B」相当と認める場合。</li> <li>小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合。</li> </ul>
C	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9未満であり、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると、評価委員会が認める場合。</li> </ul>

### 全体評価

「項目別評価」の結果を踏まえ、法人の中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。
B	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。
C	中期系威嚇の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

## II 評価結果

### 1 全体評価

法人は、教育のまち福知山における「知の拠点」として、地方独立行政法人法（平成15年法律第119号）に基づき、福知山公立大学を設置し、及び管理することにより、総合的な知識と専門的な学術を深く教授研究するとともに、地域協働型教育研究を積極的に展開することにより、地域に根ざし、世界を視野に活躍できる高度な知識及び技能を有する人材を育成し、北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することを目的としている。

#### (1)令和4年度評価結果

令和4年度評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

#### (2)総評

第2期中期計画の1年目の事業年度となる令和4年度実績の特筆すべき事項として

- ①情報学部を中軸に、情報学・経営学に立脚する地域協働型教育研究を展開するための拠点として新たに大学院修士課程「地域情報学研究科」の令和6年度設置に向けた基本計画をまとめ、教育研究に必要な施設整備を行い、文部科学省へ設置認可申請を行ったこと。
  - ②高等学校の情報科並びに高等学校及び中学校の数学科の教職課程について令和8年度設置を目標とすることを決定し、執行会議直轄の教職課程設置プロジェクトを設置し、準備を進めたこと。
  - ③附属機関として新たに「数理・データサイエンスセンター」を設置し、同センターの取組みにより、「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム応用基礎レベル」のコースが文部科学省の認定プログラムに選定されたこと。
  - ④北近畿地域の産学公の各分野が抱える課題に対して、オンラインコミュニケーションツール「Slack」を活用し、情報を効率的に発信・共有し、新たな価値の創出や地域課題の解決をめざすことを目的として、「北近畿コラボスペース」を設置したこと。
  - ⑤情報学部が開発した電子決裁システム「ERINGI」の全学導入による稟議書類の決裁電子化の完了等により、効率化を重視した業務改善を図り創造的な作業時間の確保に努めるとともに、大学運営の透明性を確保し教職員の意識向上を図ったこと。
  - ⑥業務の適性を確保し、コンプライアンスの徹底を図るため、内部統制・監査室を設置し、内部統制を強化したこと。
- などが挙げられる。

以上のような状況や、大項目評価は、2項目が「S」（中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。）、5項目が「A」（中期計画の達成に向け順調に進捗している。）であったことから、総合的に勘案し、全体評価は「A」（中期計画の達成に向け順調に進捗している。）と評価する。

令和6年度開設予定の大学院地域情報学研究科や令和8年度の教職課程の設置、「福知山モデル」の具現化に向けた地域連携の取り組みなど、今後の大学の発展にとって欠かせない事業を着実に進めていくことが求められる。また、多様性が尊重される社会にあって早期の留学制度の設計なども必要になる。さらに中期計画に掲げられた今後の大学のあり方について多方面から検討を進め、将来にわたり福知山公立大学が発展し、この地域で役割を果たしていく礎を築いていくことが重要である。

## 【令和4年度 大項目別評価結果】

大項目	評定			
	S	A	B	C
	計画を上回って進捗している	順調に進捗している	進捗が遅れている	進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
教育に関する目標を達成するための措置		○		
研究に関する目標を達成するための措置		○		
地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置	○			
業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置		○		
財務内容の改善に関する目標を達成するための措置		○		
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	○			
その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置		○		

## 2 大項目別評価

### 第4-1 教育に関する目標を達成するための措置

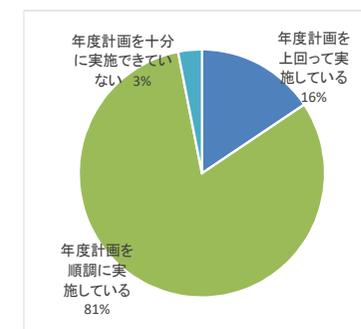
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3.1

#### (1) 評価理由

小項目別評価は下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.1となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	32	5	26	1	0
	構成比(%)	(15.6%)	(81.3%)	(3.1%)	(0.0%)



#### (2) 概況

(評価できる点等)

- 令和6年度からの大学院地域情報学研究科の設置に向けて、地域協働に重点を置いたカリキュラム編成を含む、地域共同プロジェクトに基づく学位を含む複数の学位を提供可能な仕組みを導入した大学院設置認可申請書を作成し、文部科学省に提出したこと。
- 教育の質保証を図るため、アセスメントポリシーの策定、外部アセスメントテスト（PROG）の実施と分析など、全学を挙げて取り組んだこと。
- 教職課程（高等学校及び中学校の数学科）の令和8年度設置を目標とする案を策定し、その案に基づいて、教職課程の設置準備を進めたこと。
- 全国の公立大学の学生で組織される「公立大学学生ネットワーク」主催の「LINKtopos2022（全国公立大学学生大会）」が本学を会場として開催され、学生と教員がイベントの企画運営に携わり、全国から参加する大学生がこの地域を知る機会を創出したこと。
- 原油高騰、物価高騰の中で、100円食堂、生理用品配付及び無料設置など、学生への生活支援をきめ細かく実施したこと。

(課題となる点等)

- 教職課程の設置（情報、数学）については、コストも意識しながら検討を進めてほしい。
- 年度計画であげられていた外国人留学生の増加を視野に入れた制度作りが多少停滞しているように感じられる。海外の提携先大学の開拓など積極的な取組をすすめ、外国人留学生が当然に在籍している大学を実現していただきたい。
- 北近畿地域、福知山市の地元からの志願者・入学者が伸び悩んでいるため、増加に向けた取組を進められたい。また地元就職する公立大学生が増加する取組をあわせて進めてほしい。

## 第4-2 研究に関する目標を達成するための措置

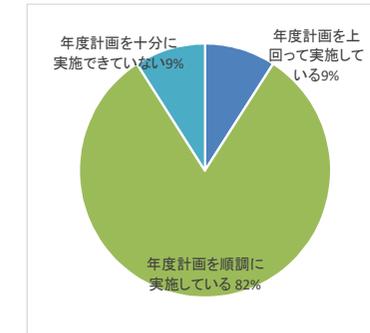
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3

### (1) 評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	11	1	9	1	0
	構成比(%)	(9.1%)	(81.8%)	(9.1%)	(0.0%)



### (2) 概況

(評価できる点等)

- 文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、前年度の「リテラシーレベル」に続き、情報学部の「応用基礎レベル」のコースが選定されたこと。
- 教員個々の専門性を活かし、水位・雨量観測機器及びネットワークの施策（地域防災研究センター）、福知山ラーニングイノベーション・プロジェクト（数理・データサイエンスセンター）等、附属機関が実施する地域課題に向けた取組みに参画したこと。
- AIによる福祉行政代行の具体的処方箋を示すことをめざす「AIが介護保険行政を代行する際のルールに関する研究」を両学部の教員が参画する共同研究により実施したこと。

(課題となる点等)

- 外部資金の獲得については、大学院を設置した後は研究コストもかかるため、年度ごとに獲得件数・金額など目標を掲げて取り組んでいただきたい。
- 京都工芸繊維大学との連携は、開学当初から地域活性化の面から大きな期待が寄せられているものであり、今後、連携の実現に向け検討をすすめられたい。

### 第4-3 地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置

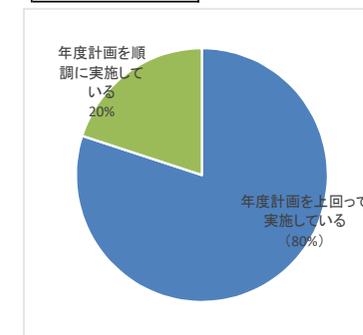
評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。

評定平均
3.8

#### (1) 評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.8となっているため、大項目別評価としては、「S」評価であり、中期計画の達成に向け計画を上回って進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	10	8	2	0	0
	構成比(%)	(80.0%)	(20.0%)	(0.0%)	(0.0%)



#### (2) 概況

(評価できる点等)

- 開学以来継続して取り組んでこられた地域を対象とした様々な取組・事業（シニアワークカレッジ、NEXT産業創造事業、プログラミング教室、市民講座、サテライトキャンパスなど）は着実に成果を生んできており、福知山公立大学の誇るべき実績である。
- 新たな取組としてスマホ・タブレット活用初心者講座を受託し実施するなど、地域のDX化の裾野の拡大に寄与したこと。
- 京都府北部の自治体職員向けDX導入研究講座や、小中学生向けプログラミング教室など、北近畿地域の人材育成に貢献したこと。
- 全国の高校生から地域活性化のアイデアを募集する「田舎力甲子園」や、将来の科学技術分野で活躍する人材の創出をめざした「海の京都サイエンスガーデン」など、広域的な取組を進めたこと。
- 北近畿地域の産学公の各分野が抱える課題に対して、様々な立場や背景を持つ多様なステークホルダーが、オンラインコミュニケーションツール「Slack」を用いて、情報を効率的に発信、共有し、様々なアイデアを蓄積、可視化することにより、新たな価値の創出や、地域課題の解決をめざすことを目的として「北近畿コラボスペース」を設置したこと。

(課題となる点等)

- 福知山モデルの具体的な考え方や取組について、そのあり方を第三者にも説明、理解できるようにさらに検討を深めていただきたい。
- 田舎甲子園をはじめとした地域を舞台とした様々な取組については、今後の地域課題解決も見据えたプロジェクトとしてより充実するよう大学での一層の努力や、この観点からの新たなプロジェクト実施主体への引継ぎもお願いしたい。

## 第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

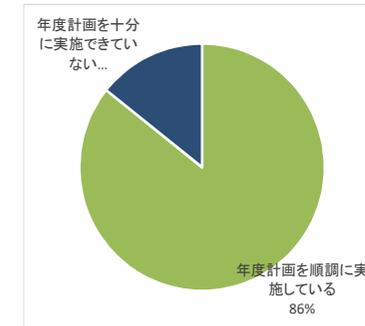
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
2.9

### (1) 評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値は2.9であるが、7項目中6項目が「3」評価であり、大項目別評価としては「A」相当と認められ、中期計画の達成に概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	7	0	6	1	0
	構成比(%)	(0.0%)	(85.7%)	(14.3%)	(0.0%)



### (2) 概況

(評価できる点等)

- 既存の継続事業についても効果やあり方を検証し見直しを行うなど効率化をすすめたこと。
- 適正な職務遂行に必要な知識の習得をめざし、教職員を対象とした多くの研修を実施したこと。

(課題となる点等)

- 教員評価制度は重要であるが、年度計画であげられた「制度素案」が策定されていないため、制度導入や評価結果の活用を図られたい。

## 第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

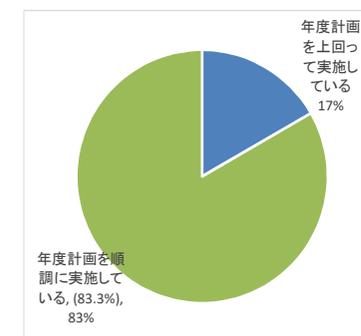
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3.2

### (1) 評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.2となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	6	1	5	0	0
	構成比(%)	(16.7%)	(83.3%)	(0.0%)	(0.0%)



### (2) 概況

(評価できる点等)

- 業務改善の一環として電子決済システム「ERINGI」を導入しペーパーレス化の推進を実現したこと。
- 入学者定員を充足し学納金を安定的に確保したこと。
- 学内の公式コミュニケーションツールとして「Slack」を導入し業務の効率化をすすめたこと。

(課題となる点等)

- 寄附金のさらなる確保のための具体的な対応の検討、実施が必要である。

## 第7 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

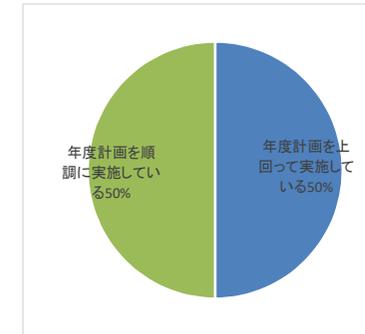
評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。

評定平均
3.5

### (1) 評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.5となっているため、大項目別評価としては、「S」評価であり、中期計画の達成に向け計画を上回って進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	2	1	1		
	構成比(%)	(50.0%)	(50.0%)	(0.0%)	(0.0%)



### (2) 概況

(評価できる点等)

- Slack導入により委員会運営を見直して効率化し、加えて学内情報公開を促進したこと。
- 自己点検方法を体系的にまとめるとともに、評価体制の整備も実施され自浄努力をしていること。

(課題となる点等)

- 特記事項なし

## 第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

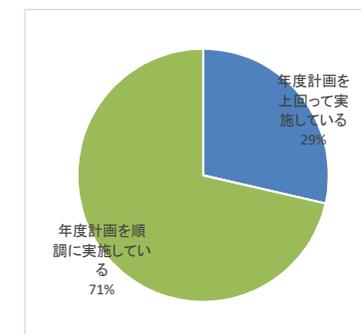
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3.3

### (1) 評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.3となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	14	4	10	0	0
	構成比(%)	(28.6%)	(71.4%)	(0.0%)	(0.0%)



### (2) 概況

(評価できる点等)

- 保健師（看護師）を採用し、保健師が常駐する保健室を毎日開室したこと。
- 内部統制・監査室を設置し、関連規程の改定、公認会計士とのアドバイザリー契約の締結、監査に関わる協議体制の強化を行い、内部監査の効力を高めたこと。
- BCP策定のためのベースになる「福知山公立大学災害時対応マニュアル」及び「福知山公立大学大規模地震対応マニュアル」を策定し、学内に共有することで防災意識の啓発を行ったこと。

(課題となる点等)

- 長期的なキャンパス整備構想は将来の学生が魅力を感じるキャンパスづくりをめざすものであるが、その策定においては資金計画も踏まえた多面的な検討を行い着実に取り組まれない。